

研 修 会 等

<専教振主催>

○ビジネス教育「教員と講師のための研修会」

「全ての教育分野、全ての学校でビジネス教育を実践」を目標に例年全国各地区で開催し、今年度は全国6会場を予定している。主な内容は、企業が求める人材像についての講演、専門学校講師陣によるビジネス教育の導入事例、授業での取り組み方、ビジネス能力検定の紹介や指導がポイントとなっている。

中期に実施された会場の研修内容は次のとおり。

島根会場 9月11日 島根県・サンラポーむらくも

特別講演「企業が求める人材像」葛原義人 サッポロビール(株)

事例発表①「3ヵ月間でやる気にさせる受験対策」岡井保千代 (株)アドバンス
トコミュニケーション)

事例発表②「人に愛され、信頼される学生を育成するための取り組み」松葉伸
彦 (ホンダテクニカルカレッジ関西)

検定受験の研究「問題作成の視点から」山崎厚 ビジネス能力検定問題作成委員会
委員長

【参加数 20名】

札幌会場 9月15日 北海道・札幌ガーデンパレス

特別講演「企業が求める人材像」鈴木努(株)JTB北海道

事例発表①「B検合格塾！一総合力で合格を引き寄せるー」井手美由樹 (専門学
校東京メディアアカデミー、産業能率大学)

事例発表②「コミュニケーション相手の視点で具体的に考えるケーススタディ
ー顧客満足戦略の実例に学ぶー」山本 航 (国際ペットビジネス専門学校金沢)

検定受験の研究「問題作成の視点から」山崎厚 ビジネス能力検定問題作成委員会
委員長

【参加数 40名】

○教員国内派遣研修事業・教員研究奨励事業ご案内

専修学校教育の振興と専修学校教員の資質向上に資することを目的として、下
記の研修事業・研究事業の参加者を募集しています。

①**教員国内派遣研修事業**…国内の教育・研究機関または企業等に一定期間派遣し、
知識及び技術を研修し、研究成果を論文としてまとめる。

②**教員研究奨励事業**…研究活動を推進・奨励し、研究成果を論文としてまとめる。

参加希望校は、各都道府県専各協会に各申請書類を平成22年1月8日までに
提出願います。

詳しくは、各都道府県専各協会または専教振へお問い合わせください。

また、専修学校教職員を対象として、国立大学及び大学共同利用機関において
研究の機会を提供している専修学校研修員制度もございます。派遣の手続きは、
派遣を希望する大学等に直接お問い合わせください。

<部会・関係団体等主催>

○青年懇話会 第19回経営戦略セミナー

全国専門学校青年懇話会の第19回経営戦略セミナーが、岡山県の岡山コンベンションセンターを会場に、11月4日から6日の3日間にわたって開催された。出席者は55名。

第1日目は、開講式にあたり、前鼻英蔵青年懇話会会長、平田眞一岡山県会長があいさつを行った。

初めに、山本眞一広島大学教授・高等教育研究開発センター所長が「大学改革の中のFD―その位置付けと背景―」をテーマに基調講演を行い、休憩を挟んで、塩原誠志文部科学省専修学校教育振興室長が「中教審キャリア教育・職業教育特別部会の審議状況」、菊田薫全専各連事務局長が「専修学校の今後について」をテーマに講演。分科会、懇親会、分科会形式のディスカッションが行われ、第1日目を終了した。

第2日目は、講演Ⅰとして、武田結幸（学）武田学園・専門学校ビーマックス理事長が、「専門学校の経営・財務マネジメントについて」をテーマに講演を行った後、専門学校ビーマックスを見学した。

昼食の後、講演Ⅱとして、平田眞一（学）第一平田学園・中国デザイン専門学校理事長が、「専門学校経営、法律のいろは」をテーマ講演を行い、その後、中国デザイン専門学校を見学。分科会、夕食、分科会形式のディスカッションで第2日目を終了。

最終日は、講演Ⅲとして、千葉茂（学）片柳学園・日本工学院専門学校長が、「大学を知ることから見えてくる、専門学校の強み」をテーマに講演。

休憩を挟んで、「求められている専門学校の質とは？」をテーマに、パネラーとして千葉茂氏、古沢幸治（学）古沢学園・広島医療保健専門学校長、谷本佳隆（学）大美学園・大阪美容専門学校副校長、前鼻英蔵青年懇話会会長が進行役を務め、パネルディスカッションが行われ、総会、閉講式で全日程を終了した。

○日本留学フェア（韓国）

日本への留学等を希望する学生に対する情報提供を目的とする「2009日本留学フェア（韓国）」が9月12日（釜山）、13日（ソウル）の2都市で開催された。

主催は（独）日本学生支援機構、共催は全専各連、（社）東京都専修学校各種学校協会、（財）日本語教育振興協会他。

参加校数は専門学校・日本語学校118、大学・大学院73。

12日の釜山・BEXCOには3,200人、13日のソウル・SETECには4,548人が訪れた。留学希望者からは、学校選択に関する質問とともに、卒業後の日本での就労を期待する声が多く寄せられた。

○第 64 回全国私立学校審議会連合会総会

10月29日から30日の2日間、三重県・伊勢シティホテル等を会場として、全国私立学校審議会連合会第64回総会が、全国から約180名の参加者を得て開催された。

1日目は、総会終了後に専門部会が開催され、第1専門部会（専修学校・各種学校関係）は会場を伊勢パールピアホテルに移して、衣斐信行部会長及び竹内茂子副部会長の進行、助言者に秋葉英一全専各連理事・総務委員長を迎え、各協議題について審議を行った。2日目は、講演後に総会が開催され、各専門部会の協議結果の報告等が行われた。

なお、第1専門部会の協議題と内容等は次のとおり。

【第1専門部会の協議題】

(1)海外留学生等の入学が見込まれる専修・各種学校の新設認可について（北海道・東北支部）

（提案理由）

海外からの留学生等の入学が一定程度見込まれる専修・各種学校の新設認可に当たっては、認可後に入国手続きや入学後の日常生活、卒業後の進路等を巡るトラブル等が懸念されることから、学校の受入体制等については十分な検討が必要と思われるが、専修・各種学校の新設等の認可に当たり、各都道府県における留学生等の受入に係る指針等の有無や、留学生等の入学が見込まれる学校の認可事例等についてご教示願いたい。

（事前調査の結果）

「留学生等の受入に係る指針等がある」との回答は1県。また、「平成18～20年度の留学生等の入学が見込まれる専修・各種学校の新設事例がある」との回答は13都府県で、認可された専修・各種学校の多くは日本語教育施設。

（審議における意見等）

- 留学生等の入学が見込まれる専修学校・各種学校を大別すると、日本語教育を行う専門学校、日本語教育を行う各種学校、日本語教育以外の専門教育を行う専門学校があり、日本語教育を行う場合は財団法人日本語教育振興協会の基準適合の認定が求められるため、教育内容別に区分して認可の在り方を考える必要がある。
- 優れた人材の受入れを促進するため、国は「留学生30万人計画」を策定している。専門学校の入学者全体に占める留学生数も増加しており、アジア諸国との関係の一層の深化を考えると、留学生受入れを通じた専門学校の職業教育による国際貢献の役割はますます重要になる。
- 単に留学生の量的拡大だけを視野に入れた学校を認可し、教育の質の低下を招いた場合、専修学校・各種学校に対する国際的信用が失墜することを危惧する。
- 地域によって入国管理局の在留資格審査等の取扱いに差があり、全国統一的な指導監督が必要である。
- 留学生受入れに係る情報提供、日本語能力の要件、留学生への財政支援及び卒業後の就労要件における、専門学校と他の高等教育機関との格差を是正する必要がある。

(審議のまとめ案)

留学生 30 万人計画の下、専修学校・各種学校への要請も高まっている。海外からの直接の受入れに際しては、日本語教育、それ以外の分野など事情を考慮する必要はあるが、アジアとの連携がますます深まる状況下では、法令を遵守した優秀な学生は、将来的なブリッジ人材の育成の観点から積極的に受け入れるべきである。しかし、学校認可に当たっては、入管法で定められた受入れ体制が整備されているかどうかを十分に審査すべきである。また、少子化傾向にあつて、安易な設置には慎重にあるべきとの意見もあった。

(2)経営不能に陥った学校法人に係る生徒等の保護について（関東・東京支部）

(提案理由)

少子化に伴い、今後、経営が困難となる学校が出てくることも予想される。経営不能に陥った学校の在校生を保護するために、全生徒の転学先を確保するか、卒業させた段階で法人を解散するよう指導するなどの方策が考えられるが、

- ・ 資金的に破綻している学校が運営を継続できるのか。
- ・ 資金負担を転学先の学校が負えるのか。その場合の行政の支援等はどうすべきか。
- ・ 大学や短大も同時に経営している学校法人の場合、文部科学省と都道府県の指導権限をどう調整していくのか。

また、破綻した学校の卒業生の保護の問題として、

- ・ 卒業証明書等、卒業生が就職等において必要な書類を誰が保管し、責任を持って証明するのか。

以上の問題について、今後現実的に対応を迫られることとなり、各都道府県において今後検討を進めていくことが必要と思われるため、協議事項として提案する。

(事前調査の結果)

「経営不能に陥った専修・各種学校の在校生の転校の斡旋、損害の金銭的な補償等の保護措置の事例件数」は 5 府県で 5 件。

(審議における意見等)

- 4 月時点で破綻した事例（厚労省指定養成施設）では、都道府県協会が関連専修学校に在校生等の受入れを要請するとともに、地方厚生局が所轄地域の関連専修学校に同様の要請を行った。
- 12 月時点で破綻した事例では、短期間で都道府県協会が転学先を調整・斡旋し、年内中に転学先の学校が説明会を開催、全員を受入れること、入学金を徴収しないこと、翌年 3 月までの授業料を徴収しないこと、翌年 4 月からの授業料は破綻した学校と同額とすること等の条件を提示し受入れを行った。同時に、県は転学先の学校に特例的な助成措置を講じた。
- 事前に破綻を回避する事例では、都道府県協会と都道府県で事前協議を行う仕組みを整備し、経営支援を真剣に考える第三者を紹介する等、情報共有を通じて在校生の保護を講ずる取組を行っている。
- 都道府県は、学校の財務状況の検査を一層徹底し、厳格な指導を行う必要がある。

(審議のまとめ案)

経営不能に陥った学校の在学生の保護に当たっては、行政、都道府県協会の連携により、受け皿の確保にあたった事例が報告された。学校の経営破綻は、社会的な影響が極めて大きく、行政・団体との情報共有化など、セーフティネットの構築が急務である。私学審議会として、学校の永続的安定性を十分に担保した学校認可に当たるとともに、認可後の指導に当たっては、財務状況の把握に努め、未然に防止するような体制作りを行政に求めるべきとの意見がなされた。

【各専門分会共通の協議題】

(1)私立学校審議会における法令上の諮問事項以外の議案の審議について(中部支部)

(提案理由)

私立学校審議会は私学の自主性を担保し、私立学校に対する行政の適正を期するため、学校の設置、廃止、学校法人設立の認可等、一定の事項に関する諮問機関として各都道府県に置くこととされている。

私立学校法第9条第2項では、「私立学校(専修・各種を含む)に関する重要事項について、都道府県知事に建議することができる」となっているが、中部各県では、近年、法令上の諮問事項以外には審議を行っていないケースがほとんどであった。

今回、「重要事項についての都道府県知事への建議」について、具体的な事例を全国各自治体からお伺いする中で、今日の私学行政における審議会の存在意義について考えるきっかけといたしたい。

(事前調査の結果)

「平成10年度以降、知事に建議を行った」との回答は8府県で、私立学校全体に係る振興方策、あるいは特定の校種に係る当面の課題に分かれる。

(審議における意見等)

○現在審議中の事例では、委員の発案により具体的なテーマを設定せず、校種ごとの部会それぞれに都道府県協会の協力を得て審議を積み上げながら、全校種にわたる幅広い議論を行い、年度内に取りまとめ、知事に提案する予定となっている。

○校種を超えて私学全体の課題や将来について共通理解を深めることは、都道府県の活性化にも繋がる面で意義深い。

(審議のまとめ案)

審議会からの建議事案について、1県から審議委員の発案により具体的な主題を設定せずに現在審議を継続している事例紹介があった。校種を超えて都道府県の私立学校が当面する課題や目指すべき将来像を審議、知事へ建議することは、私立学校全体の振興、ひいては都道府県の活性化にも資する重要性に鑑み、審議会として、今後とも積極的に検討されるべきとの意見がなされた。

○ADEC色彩士検定結果

特定非営利活動法人全国美術デザイン専門学校教育振興会主催の文部科学省後援第26回色彩士検定(3級・1級実技)が、9月13日、全国43会場で実施さ

れた。結果は次のとおり。

<3級>出願者数 1,244 名、受験者数 1,152 名、合格者 809 名、合格率 70.2%

<1級実技>出願者数 5 名、受験者数 4 名、合格者数 1 名、合格率 25.0%

○第 14 回全国学生技術コンテスト

平成 21 年 11 月 4 日、東京都・国立代々木競技場第二体育館を会場に、第 14 回全国学生技術コンテストが開催された。主催は（社）全国理容美容学校連盟、後援は文部科学省、全専各連。結果は以下のとおり。

ワインディング 1 年生の部

該 当 賞	氏 名	学 校 名
文部科学大臣賞	春原 舞	ハリウッドビューティ専門学校
学連理事長賞	清水 梨央	北海道美容専門学校
全専各会長賞	松崎 あずさ	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
優秀賞	高橋 一矢	関西美容専門学校
優秀賞	西垣内 麻衣	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
優秀賞	大山 千晶	ハリウッドビューティ専門学校
優秀賞	築根 幸恵	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
優秀賞	川上 優香	北海道美容専門学校
週刊美容賞	坂田 千紗	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
理美容流通新聞社賞	田中 景子	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
新美容出版社賞	金子 あい	松本理容美容専門学校

ワインディング 2 年生の部

該 当 賞	氏 名	学 校 名
文部科学大臣賞	藤森 英	松本理容美容専門学校
学連理事長賞	青木 大治	ハリウッドビューティ専門学校
全専各会長賞	新垣 真里奈	ハリウッドビューティ専門学校
優秀賞	松尾 みなみ	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
優秀賞	岩崎 桃子	ハリウッドビューティ専門学校
優秀賞	中田 侑布子	北海道美容専門学校
優秀賞	芳賀 みなみ	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
優秀賞	山下 はるな	北海道美容専門学校
オールビューティ社賞	楠美 江莉子	北海道美容専門学校
サロンニューズマガジン社賞	篠塚 純	パリ総合美容専門学校 柏校
髪文化舎賞	岡本 竜太	関西美容専門学校

カットの部

該 当 賞	氏 名	学 校 名
文部科学大臣賞	堀 春菜	クレアヘアモード専門学校
学連理事長賞	櫻井 麻美	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
全専各会長賞	角田 佳央里	クレアヘアモード専門学校
優秀賞	中澤 千尋	国際ビューティモード専門学校
優秀賞	岡部 麻由	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
優秀賞	浅江 通友	富山ビューティーカレッジ
優秀賞	齋藤 泰崇	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
優秀賞	深田 一政	ハリウッドビューティ専門学校
髪書房社賞	白鳥 知佳	窪田理容美容専門学校
B.B com賞	中西 理恵	北海道美容専門学校
専門学校新聞社賞	桑田 健太郎	関西美容専門学校

アップスタイルの部

該 当 賞	氏名	学 校 名
文部科学大臣賞	鈴木 群	ハリウッドビューティ専門学校
学連理事長賞	佐藤 まどか	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
全専各会長賞	小林 真奈美	関西美容専門学校
優秀賞	児玉 智彦	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
優秀賞	内田 知沙	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
優秀賞	伊豆島 豊	関西美容専門学校
優秀賞	御船 早苗	福岡南美容専門学校
優秀賞	木全 章	北海道美容専門学校
百花草賞	小林 莉江	タカラ美容専門学校
コワフェール・ド・パリ・ジャポン社賞	高森 彩可	富山ビューティーカレッジ
ザ・ビューレック賞	山本 佳則	東京美容専門学校

ヘア・デッサンの部

該 当 賞	氏名	学 校 名
文部科学大臣賞	渡部 瑞季	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
学連理事長賞	今井 ひかり	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
全専各会長賞	青柳 奈々美	国際文化理容美容専門学校 国分寺校
優秀賞	姜 忠求	ハリウッドビューティ専門学校
優秀賞	岡崎 翔	東京ヘアメイク専門学校
優秀賞	鷲谷 いづみ	高山美容専門学校
優秀賞	中村 美砂	資生堂美容技術専門学校
優秀賞	水野 佳南	国際文化理容美容専門学校 渋谷校
理美容教育出版社賞	十文字 あゆみ	高山美容専門学校
女性モード社賞	古本 佑香	富山ビューティーカレッジ